第5章
緑の配置方針と配置計画

西念寺のクスノキ

第5章　緑の配置方針と配置計画

5－1　緑の配置方針

緑の配置における計画の策定方法として、第３章の系統別の解析･評価及び課題をもとに、「環境保全」、「レクリエーション」、「防災」、「景観」の４系統による緑の配置計画を作成する。

○環境保全系統

- 良好な都市環境を形成する都市の緑の骨格の保全
- 良好な都市環境を形成している緑の保全と生態ネットワークの形成
- 各地域の環境特性を活かした緑の保全・整備

○防災系統

- 災害時に避難場所となる系統的な緑地の配置
- 災害時の避難路となる安全な緑のネットワークの形成かつＵＤ※1の整備
- 災害時の緩衝緑地の確保

嬉野市の緑の配置計画

○レクリエーション系統

- コンベンション都市として、また市民の多様なレクリエーションニーズに対応した緑地の改修・拡張整備
- 都市施策や地域の要望に対応した公園・緑地の適正な配置
- 公園･緑地の相互利用を高めるための緑のネットワーク形成
- ＵＤ※1を考えた施設整備

○景観系統

- 嬉野らしい郷土景観・観光景観を構成する既存緑地の保全と創出
- 文化財や保存地区と一体となった緑地景観の保全
- 地区景観の美観向上に資する緑地の整備

※1　ＵＤ（ユニバーサルデザイン）：誰もが利用しやすい製品、施設、環境等

これらの４系統の緑の配置計画をベースにして、**都市計画区域の変更や用途地域の拡大などによる都市の発展動向**や**緑地の充足状況**を踏まえ、バランスの取れた総合的な緑地の配置と、目標年次までの緑化計画を行う。

5－2 系統別緑の配置計画

（1）環境保全系統における緑の配置計画

○ 都市の緑の骨格を形成する緑地の保全と創出

・ 塩田川や吉田川の水辺、市街地の周辺を囲む山々の森林、裾野や丘陵地に分布する茶畑、河川流域に広がる農地等は、良好な嬉野市の環境を形成する緑地であることから、できる限り現状のまま保全を図っていく。特に市域を西から東に横断する塩田川沿いは、嬉野市の都市軸であるだけでなく、緑の骨格・風の通り道として重要な機能を果たしている緑地でもあることから、優先的かつ積極的に保全検討を推進する。

・ また、塩田川と一体となった轟の滝公園等の環境的に優れた公園・緑地は、保全・改修して後世に引き継ぐ。

・ 生活環境保全林として指定されている嬉野総合運動公園や唐泉山、22 世紀アジアの森、また落葉広葉樹林が比較的まとまって分布する国見岳周辺の山林は、良好な自然環境が残っており、一部では林層改善等の環境整備活動も行なわれている。この４箇所を環境保全・創出拠点として明確に位置づけ、住民参加による広葉樹転換などの環境整備活動を推進し、徐々にではあるが良好な自然環境を市全域に浸透させる。

○ 良好な都市環境（自然環境）の形成と生態系ネットワークの形成

・ 嬉野市の市街地内外には、昆虫や鳥など自然とのふれあいができる公園や緑地、四季の彩が感じられる名勝、史跡等と一体となった歴史的風土を形成する自然度の高い緑地等が多く点在している。これらを保全して良好な都市環境を保持すると同時に、都市軸・緑地軸として位置づけられる塩田川沿いに塩田川の自然環境を活かした緑道を整備し、これらの良好な都市環境構成要素と有機的なネットワーク形成を図ることにより、生態系的にも繋がりのある都市環境の形成を図る。

・ 塩田川・吉田川の河川流域では、佐賀県が希少野生動植物種としている「カンラン」が確認されているほか、約 60 種類の野鳥、上流部ではゲンジボタルも確認されるなど、動植物の良好な生息空間となっている。この豊かな水と緑の水辺環境を、現状のまま保全すると同時に、都市域への生物の移動経路となる生態系ネットワークの形成を図る。

○ 地区の環境特性を活かした緑の保全・環境整備

嬉野市は西日本有数の温泉源と、宿場町・焼物・酒・紙すき等の歴史・文化資産を有する観光都市である。

温泉宿や区画整理により宅地化が進んだ嬉野地区の市街地エリア（用途地域）内と、それ以外の農村エリア内では、緑地の保全・整備のあり方にも差がある。

《市街地エリア》

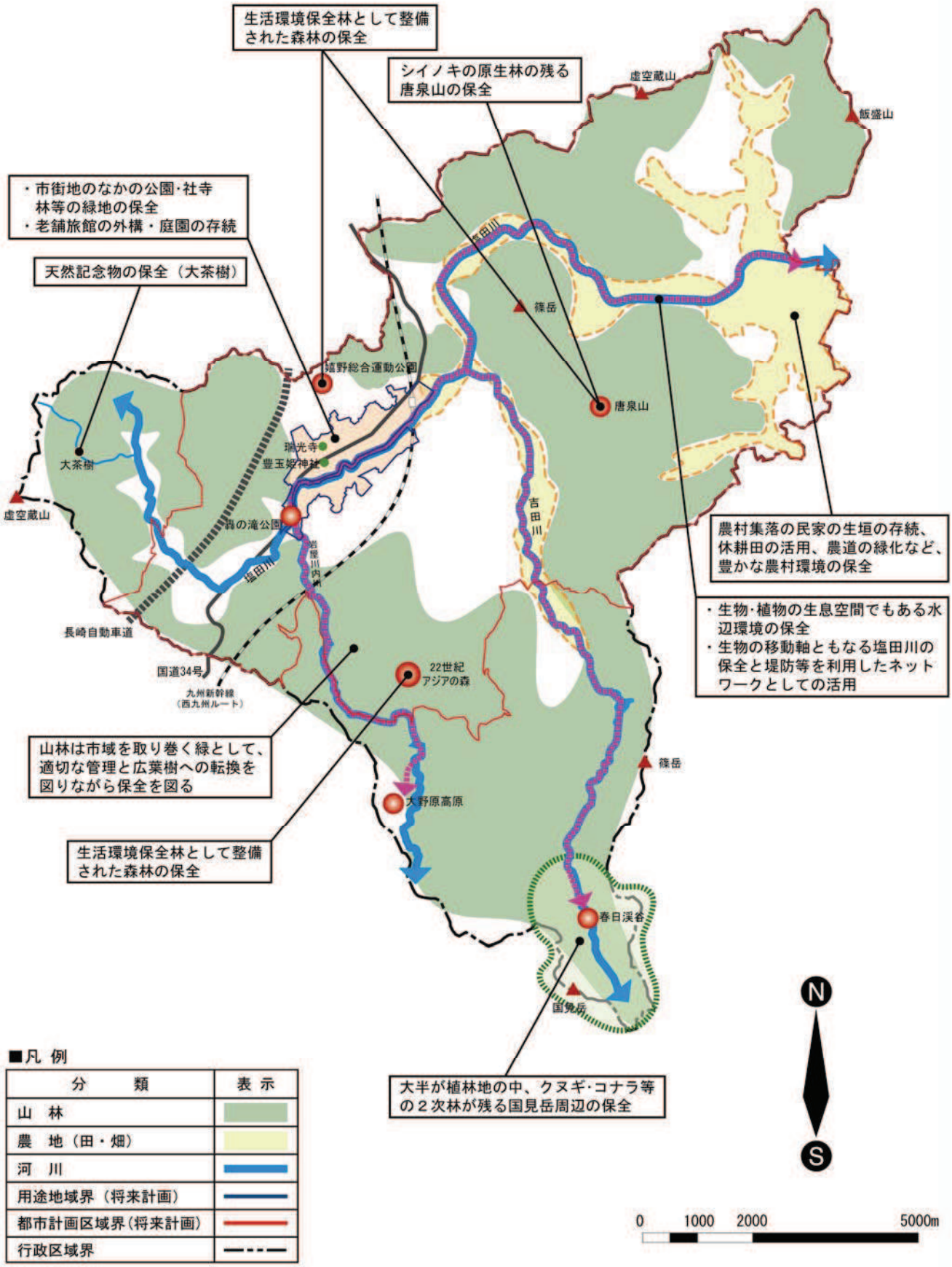
・ 新たな緑地の確保が難しい市街地エリアにおいては、地域の生活に密着した身近な緑である社寺林・河川・溜池周辺に残る緑地を保全するほか、老舗旅館の外構や庭園、レジャー施設などの民間施設緑地の保全施策を講ずるなど、現状の緑を残す方向を検討する。

《農村エリア》

・ 分散型の集落形態で周辺に農地や山林が多い農村エリアにおいては、文化財や史跡と一体となった緑地が多く、これらの緑地の計画的な担保を図っていく。
また、現在でも比較的多く見られる集落内民家の生垣の維持、休耕田や農道を活かした緑化※2を進め、豊かな農村環境づくりを目指す。

※2：「農地・水・環境保全向上対策」や「生物多様性を重視した持続可能な農業への取り組み」など。

緑の配置計画−環境保全系統



（２）レクリエーション系統における緑の配置計画

○ 多様なレクリエーション需要に対応できる緑の配置

- 周辺都市のレクリエーション施設の配置バランスや連携を考慮し、嬉野市が目指す着地型観光都市の方向に合致した施設の充実を、都市基幹公園（嬉野総合運動公園、西公園、和泉式部公園、北部公園など）の改修・拡張整備等で対応していく。
- 健康への関心の高まり、高齢化社会への配慮、アンケート調査などで明確になった市民のニーズなどに対応した公園・緑地の適正配置、及び施設の老朽化に伴うリニューアルなども考慮し、計画的な緑の配置計画を立案する。
- 現況の轟の滝公園、イカダ記念公園、鷹ノ巣公園、温泉公園のように、河川やため池などの水面を活かした親水性の高い公園緑地の整備を推進する。
- 公園・緑地や緑道は、多様なレクリエーションニーズに対応できるように、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを基準にした施設整備を行なう。
- 温泉を活かした街角小広場の整備を推進する。

○ 公園･緑地等の相互連携

- 嬉野市内の主要な公園・緑地と、緑の骨格である塩田川沿いに整備する緑道とを、相互の利用促進が図れるようにネットワーク化することによって、嬉野市全体のレクリエーション体系の強化を図る。
  さらに観光都市としての魅力も合わせて高めるために、レクリエーションネットワークと観光拠点との相互連携も図る。

○ 都市の発展・地域特性をふまえた公園・緑地の整備

温泉宿や区画整理により宅地化が進んだ嬉野地区の市街地エリア（用途地域）内と、それ以外の農村エリア内では、公園・緑地の整備の仕方にも差ができる。

《市街地エリア》

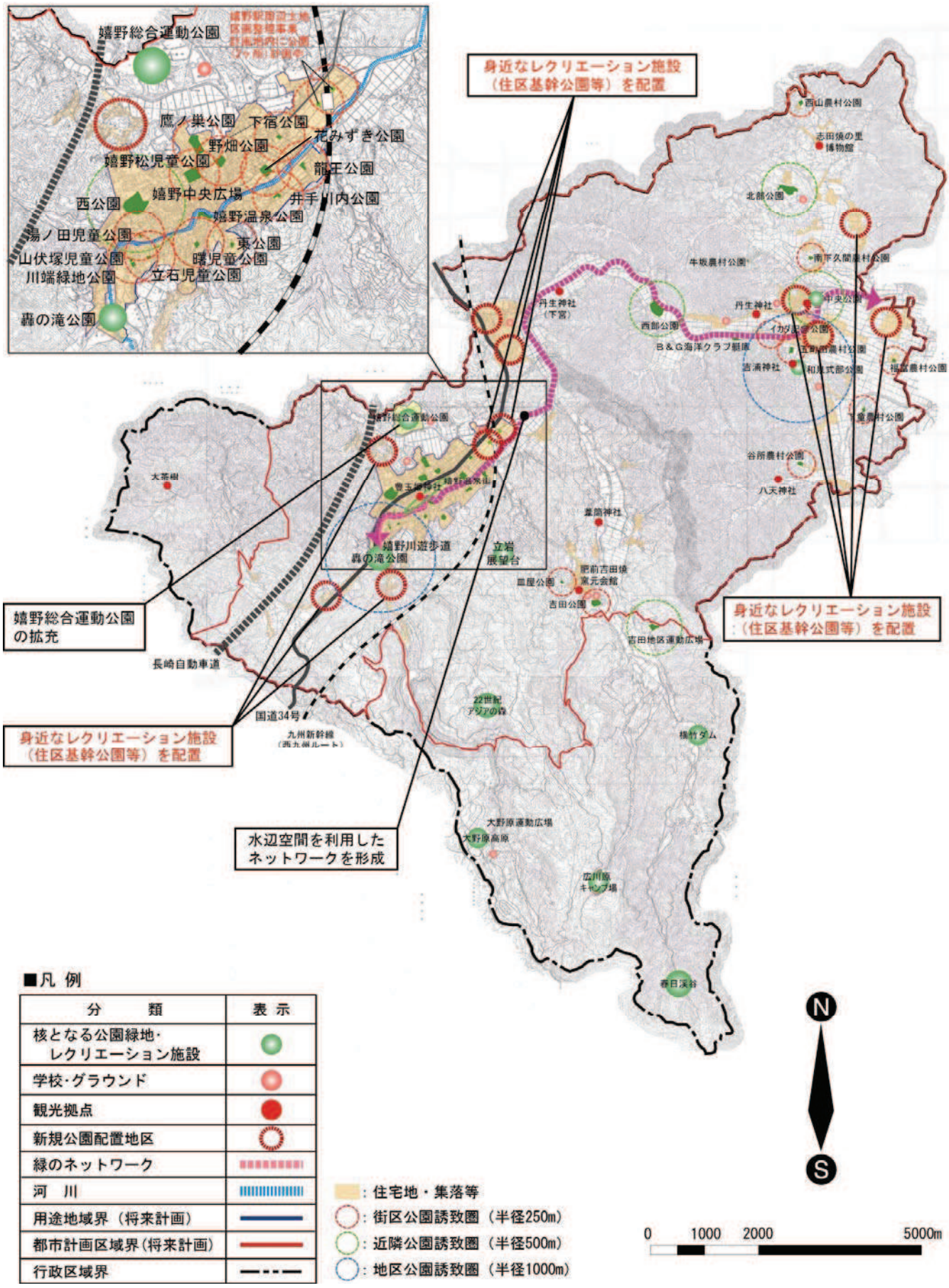
- 新たな公園・緑地の整備が難しい既成市街地エリアでは、空き地を利用したポケットパークの整備、街角のオープンスペースを利用した壁面緑化やフラワープランターの設置などにより、緑視率を高める工夫をする。

- 区画整理や新幹線駅整備予定地等の市街地拡大エリアは、その空間にふさわしい修景緑地や、開発基準に適合した住区基幹公園を整備する。

《農村エリア》

- 市街地以外のエリアにおいては、集落の発展動向や既存集落内の公園の配置バランスを考慮して、カントリーパークや街区公園相当の公園・広場を整備する。

緑の配置計画-レクリエーション系統



■凡 例

分　　類	表 示
核となる公園緑地・レクリエーション施設	●
学校・グラウンド	●
観光拠点	●
新規公園配置地区	○
緑のネットワーク	
河　川	
用途地域界（将来計画）	
都市計画区域界（将来計画）	
行政区域界	

：住宅地・集落等
：街区公園誘致圏（半径250m）
：近隣公園誘致圏（半径500m）
：地区公園誘致圏（半径1000m）

（３）防災系統における緑の配置計画

○ 災害時の安全性の確保に資する公園・緑地の配置

- 嬉野市の防災計画では公園･緑地は避難場所に指定されていない。公園緑地は一般的に下表のように避難地としての機能を有することから、本計画では避難場所として公園を下記のように位置づけ、防災機能の充実を図る。

  一次避難地　　：　和泉式部公園、北部公園、轟の滝公園、
  （地区公園･近隣公園クラス）　　西公園（医療センター跡地を含む）

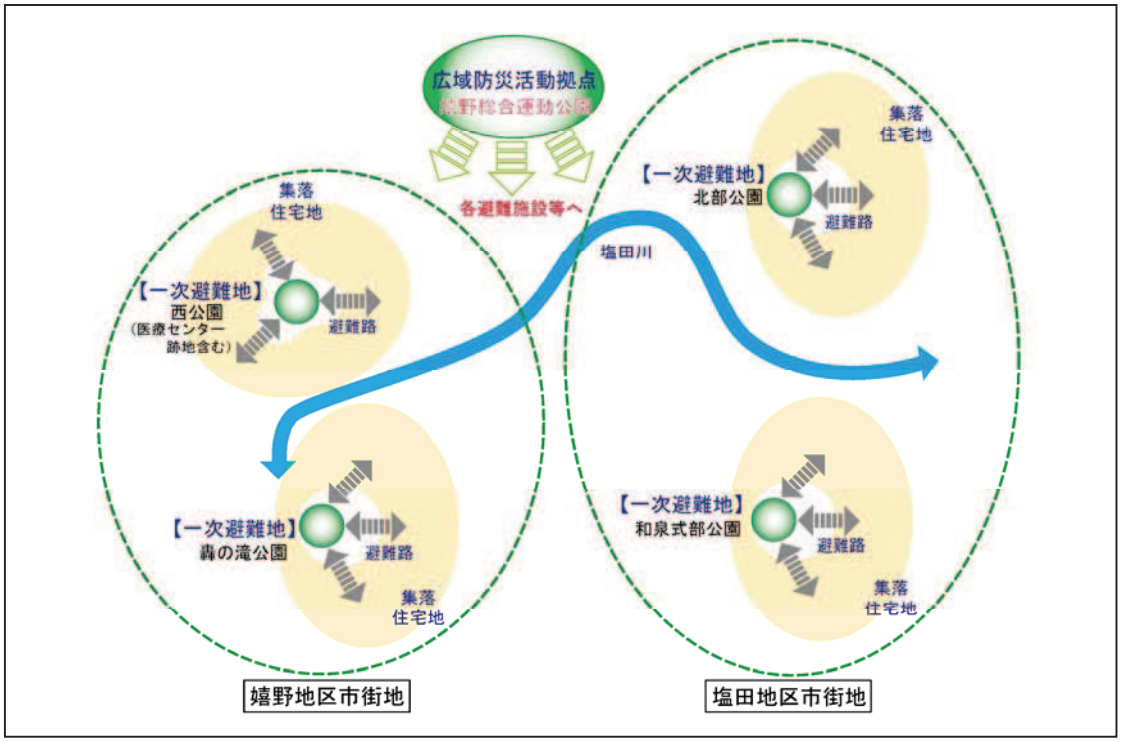
- 上記の公園から公共施設等の各指定避難場所へ、安全に避難するために、緑道や歩道等を可能な場所から順次整備する。
- なお、嬉野総合運動公園は、広域防災活動拠点として位置づける。

表【参考：防災系統に設定する公園の種類･役割･標準的種別】

種　類		役　割	標準的公園種別
避難地	広域避難地の機能を有する都市公園	大震火災等の災害が発生し広域的避難が必要になった場合、最終避難地となる都市公園	総合公園
	一次避難地の機能を有する都市公園	大震火災等の災害が発生し広域的避難が必要になった場合、最終避難地に至るまでの一時的避難地となる都市公園。広域的避難が必要でない場合は最終避難地、一時的避難生活の場となる。 また、スペースに余裕がある場合は物資の配給、非難生活者へのサービス提供の場となる。	地区公園 近隣公園 街区公園

資料：「緑の基本計画ハンドブック」より抜粋

■公園緑地における避難地･避難路■



○ 災害時の緩衝緑地となる緑の配置

・ 市街地周辺において、塩田川の広い空間は火災時における遮断・分断要素となり、延焼を防止する効果がある。
さらに防火樹木を河川に沿って植栽することによって、延焼防止効果が高まるため、塩田川沿いに桜並木を植栽する。

なお、過去に市民は塩田川の氾濫により被害を受けており、塩田川を避難路として整備する場合は、被災時の水位や浸水範囲を十分配慮し、安全に誘導できる形で整備する。

○ 災害発生のおそれのある地区における取り組み

・ 嬉野市周辺を取り囲む山林は、急傾斜や地すべり等の自然災害に対する注意が必要な緑地が多く、これらの丘陵地斜面林は開発を抑制して現状のまま保全する。

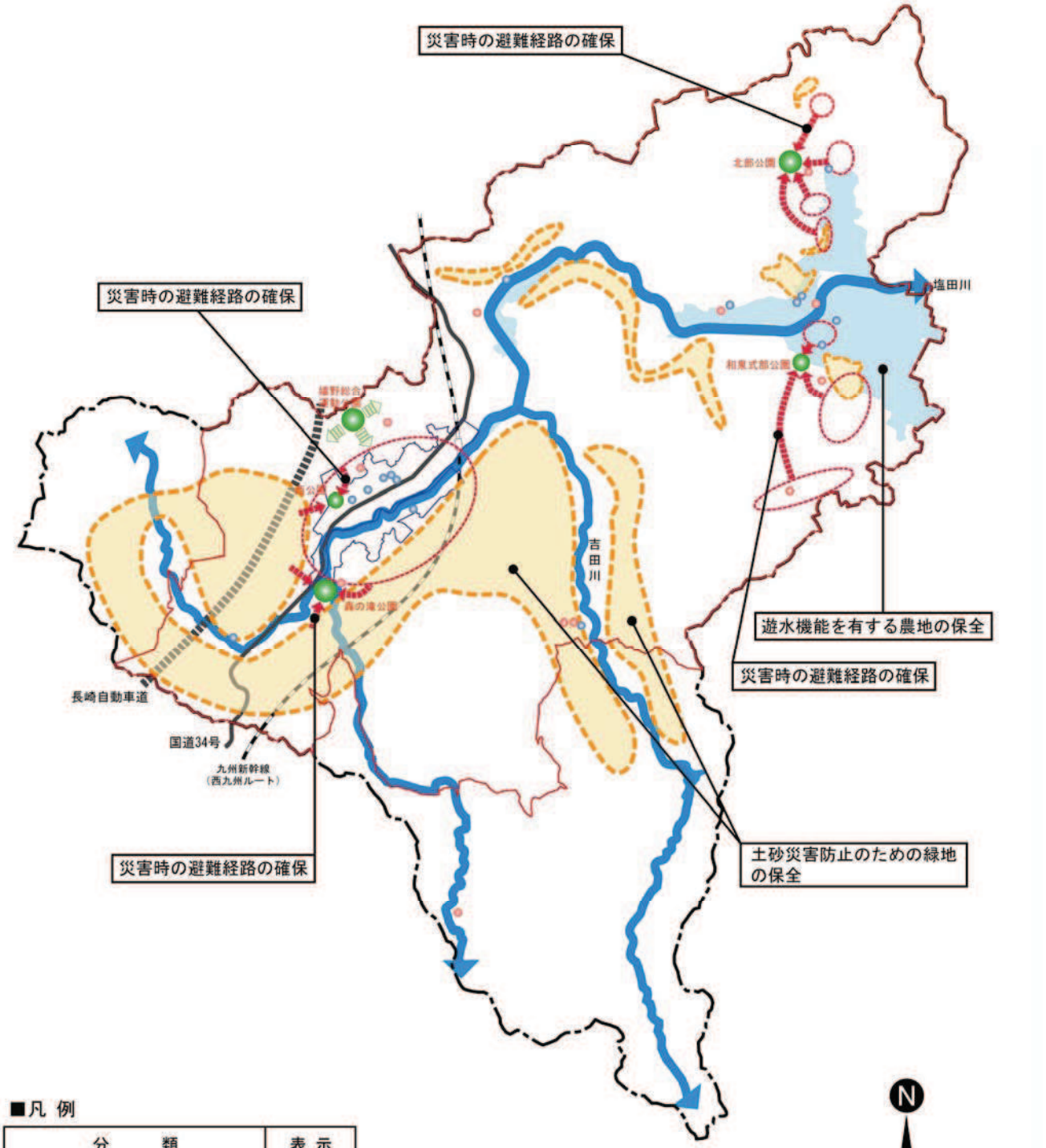
・ 河川の氾濫等による水害の危険のある地区において公園緑地を整備する場合は、遊水機能のある広場の設置や避難地となる高台の整備を可能な範囲で検討する。

近年、我が国においては、集中豪雨や地震・津波などの自然災害が頻繁かつ大規模に発生している。平成 23 年 3 月には、マグニチュード 9 と気象庁観測史上最大の東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波による東日本大震災が発生し、多数の人命や都市基盤が失われることとなった。

盆地の平野に発展してきた嬉野市では、海からの距離、断層の分布、過去の被災状況から判断すると、津波や地震に対しての危険性は少ないといえるが、「豪雨による浸水被害」、「急傾斜地の崩落や土砂災害」、「密集した市街地や旧集落の火災」などに対しては十分な被災対策を検討しておく必要がある。

そのために、既に設定されている公民館や校舎等の建築系の避難施設だけではなく、地盤のしっかりした高台にあって、救援物資や復興資材等の配布基地・仮設住宅の建設場所としても利用できる公園緑地を、避難地として位置付ける意義は高い。

緑の配置計画－防災系統



■凡 例

分　　類	表 示
指定避難地（学校）	
指定避難地（学校以外）	
避難地となる公園・緑地	
遊水機能のある水田（農地）	
河　川	
用途地域界（将来計画）	
都市計画区域界（将来計画）	
行政区域界	

：集落・住宅地

（４）景観系統における緑の配置計画

○ 嬉野らしい緑の郷土景観の保全と創出

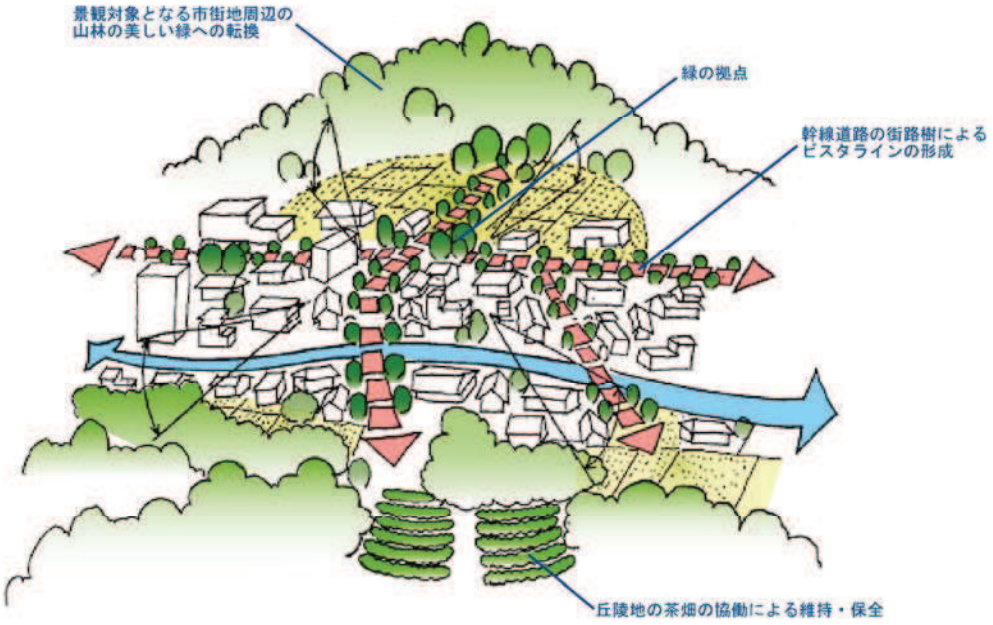
- 市の西側に位置する嬉野地区は周囲が山林で囲まれた盆地の形態をなし、市街地はその緑豊かな山裾を流れる塩田川に沿って平野部に発展してきた。
- 市の東側に位置する塩田地区は虚空蔵山、唐泉山、飯盛山、篠岳という市を代表する山々に囲まれた狭小な谷合部分と、そこから広がる広大な農地エリアが特徴で、市街地は塩田川沿い及び田園地帯に形成されてきた。

嬉野地区（立岩展望台からの景観）

塩田地区（和泉式部公園の広場からの景観）

- 嬉野市の特性である、市街地を取り囲む豊かな山林は、市民との協働で守り育てていくと同時に広葉樹林化を進め、住んでいる市民の心が豊かになる緑の都市景観へ、また観光産業にとって有益な四季の移り変わりの楽しめる緑の景観へと転換を図ってゆく。
- 市街地においては新たな緑の拠点を創出し、主要幹線道路の歩道や塩田川沿いの遊歩道の緑化を推進して、市街地を取り囲む緑と市街地内の緑を結びつけ、景観軸となる緑のネットワーク創りを進めていく。

■周囲の山林と一体となる市街地の緑



■現在の景観ネットワークとなっている街路樹や塩田川

・ 嬉野市のお茶は、食品のブランドとしてだけでなく、茶畑として最も嬉野らしい特徴が感じられる緑の景観になっていることから、市民活動の積極的な支援や、各種助成制度の活用など保全対策を検討する。

またこの地域の丘陵地における農業としてずっと営まれ、周辺の山林と一体となり美しい風景を構成している棚田も、嬉野らしさが感じられる良好な農村景観であることから、同様に保全・維持対策を検討する。

・ 立岩展望台や和泉式部公園からは嬉野地区や塩田地区が眺望できる場所であり、これらの視点場の保全及び改修により充実を図る。

・ 肥前小富士とも呼ばれ、嬉野市のランドマークとなっている唐泉山の広葉樹林化を進め、良好なシンボル景観を保全する。

○ 街地内の魅力ある景観ポイントの保全及び良質な市街地景観への転換

嬉野地区は周辺を山々で囲まれているが、市街地が発展してきたのは周辺より低い塩田川沿いであり、２階建て以上の建物が密集している商店街周辺では南北方向の景観は視認できない。景観が視認できるのは、道路、池や河川、高台、建物などの撤去跡地や駐車場・公園緑地等のオープンスペースがある部分に限定される。周辺の山々の景観が認識できるポイントは、道路が一番多い。塩田地区も基本的には同じではあるが、嬉野地区に比べて高い建物が少なく、周辺の緑の山々が見渡せる。

嬉野地区市街地内の緑の景観ポイントは、以下のような場所などがあげられる。

○総合運動公園線の市役所周辺から見える南側の茶畑と山の緑景観

○病院通り線の南側から見える山々の景観

○国道 34 号線の東西進行方向から見える唐泉山等の山々の景観

○第七土地区画整理が行われた新市街地の近隣公園から見える南西側の茶畑景観

○旧本通り線（商店街）の一部から見える唐泉山の景観

○第七土地区画整理が行われた新市街地の橋梁から見える唐泉山等の山々

○塩田川沿いの温泉公園周辺の景観

○嬉野医療センター付近のため池・街路樹・社寺林等の緑の景観

○密集した商店街と、所々空間が開いているところ（通路・店舗駐車場・解体店舗部分）から見える、南側の背後の山の緑。

○総合運動公園線と下宿大通り線の交差点コーナー部緑地の景観

○商店街の中の休憩スポット

これらの景観ポイントで、質・量共に良好な緑は市民との協働で適切な維持管理をして保全に努める。

景観対象の山や河川が良好な借景となっているポイントでは、電線・看板・建物のファサードや色調等の景観を阻害する要素を改善すると同時に、街路樹植栽を周辺の山々まで延伸するなど、周辺の山の緑景観と市街地の緑景観が一体になるような、ビスタラインを活かした修景緑化を検討してゆく。

商店街については、空き地・空き家を休憩広場や庭園・駐車場などにうまく活用し、借景となる山の緑を取り込む。歩車道空間等はツリーサークルに植栽した樹木やプランター花壇、芝生駐車場等を整備することによって、来訪者が楽しく利用できる空間に転換を図ることが望まれる。

○嬉野の伝統的建造物群保存地区や文化財周辺の緑景観の保全

・ 塩田地区の伝統的建造物群保存地区に指定された塩田津地区の樹林地は、建物群を引き立てる背景となっていることから風致地区などの保全施策を講ずる。

・ 市内に点在する有形文化財・天然記念物や、行事が行なわれる社寺林の背後の森は、地域の歴史風土を育んできた緑として法規制により保全する。

○ 地区の美観向上のための新たな緑の創設

・ 嬉野温泉駅整備エリアは、九州新幹線西九州ルートの開通における本市の新たな玄関口であることから、新たな嬉野市の顔として嬉野らしさが感じられる修景緑化を行なう。

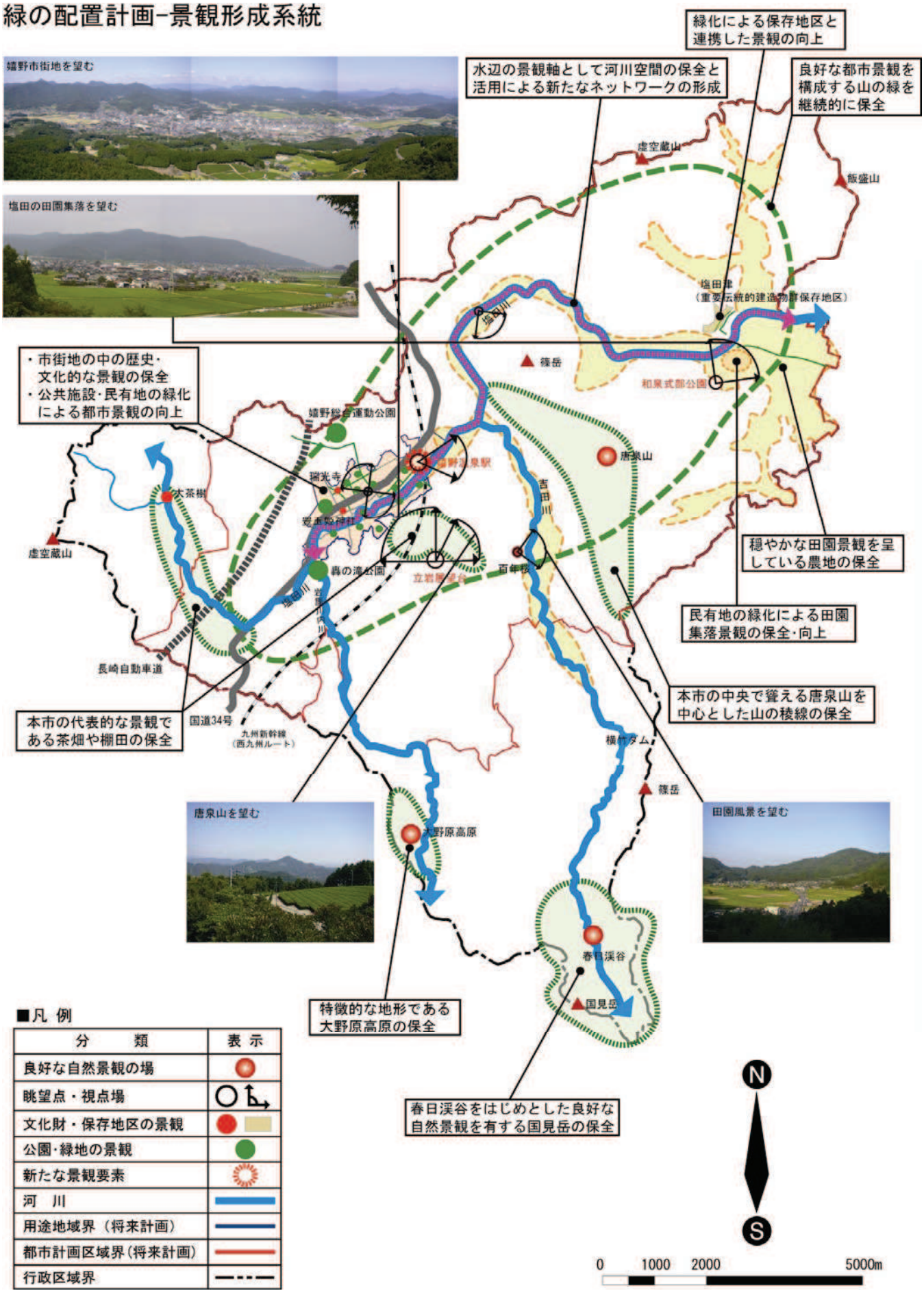
・ 嬉野市の緑の骨格となっている塩田川については、さらに景観軸としての魅力を高めるために、レクリエーションの歩行者ネットワークの整備に合わせて、河川沿いに景観演出効果の高い桜並木を植栽する。

・ 近年、維持管理費の削減のために緑化は削減する方向にあるが、修景効果の高い緑の削減は観光都市としてのイメージダウンにつながることが予測される他、環境・レクリエーション・防災系統の緑のネットワークの連続性も確保できなくなるため、ネットワークを構成する幹線道路や緑道などについては、最低でも高木の並木植栽を行うこととする。

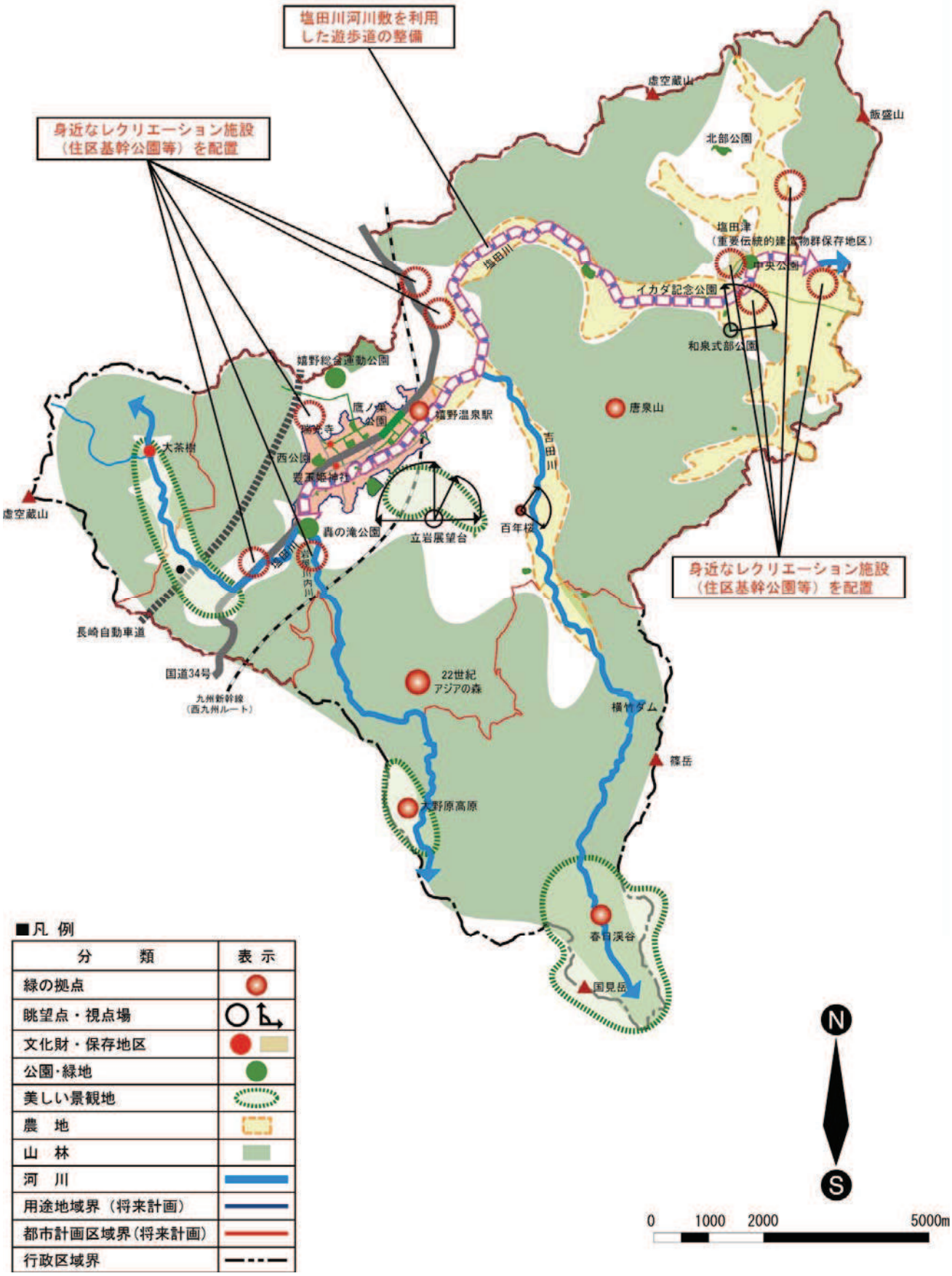
嬉野市では景観計画を策定しているが、まだ具体的なルール作りや規制地区を定めるまでには至っていない。

緑の基本計画で位置付けた、後世に残すべき良好な緑の景観資源や歴史文化資産の保全、周辺の緑景観と調和のとれたまちづくりを今後継続して推進し、嬉野らしい良好な景観形成を図る必要がある。特に「市の中心部である温泉街」や、「塩田津地区」、「新幹線駅周辺エリア」については、地元の方々が中心となって必要なルール（地区景観基本計画及び地区景観形成基準）を定めた景観形成重点地区として位置付け、個性豊かなまちづくりを進めていくことが望まれる。

緑の配置計画−景観形成系統



5-3 緑の配置計画総括図



■凡 例

分　　類	表 示
緑の拠点	
眺望点・視点場	
文化財・保存地区	
公園・緑地	
美しい景観地	
農　地	
山　林	
河　川	
用途地域界（将来計画）	
都市計画区域界（将来計画）	
行政区域界	